

西郷隆盛の心の友、 橋本左内

橋本左内肖像
(福井市立郷土
歴史博物館蔵)



平 成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の主人公西郷隆盛は、薩摩藩士で明治維新の三傑に数えられる人物です。この西郷と最も関係が深かった福井の先人が橋本左内です。

薩摩藩主島津斉彬とともに江戸へと出府し、薩摩藩の「御庭方役（情報収集係）」となった西郷隆盛（当時29歳）は、安政2（1855）年12月に、福井藩士、橋本左内（当時22歳）と、薩摩藩の江戸屋敷で初めて会います。左内は国事について意見を交わそうと西郷を訪ねました。

その際、こんな逸話が残っています。左内が部屋を訪ねた時、西郷は縁側にて若い者に相撲をとらせていました。西郷は、小柄で楚々たる左内を一目見たものの、相撲が終わるまで待たせたそうです。左内は対座した際、「私は、あなたと国の大事について意見を交わしに来たのに、放っておくとは何事か。」とききつぱりと言いつちました。続いて、「攘夷ではなく開国して国の力を強くすることが必要だ。」と、広い知識と深い洞察を示しながら語りました。西郷は左内の見識に驚き、これからも指導願いたいと、心から頭を下げ

たといいます。

翌日、西郷は正装し福井藩邸を訪ね、前日の無礼を詫びます。後日、西郷は「私は先輩では水戸の藤田東湖氏、同じくらいの年齢では橋本左内氏が立派だと思う。この二人の学問や人の大きさは私の到底及ばないほどだ。」と述べています。

その後、安政5（1858）年から、二人は將軍継嗣問題に奔走します。当時、將軍家定の後継者を巡り、一橋派と南紀派に分かれた政争が生じており、薩摩藩と福井藩とともに一橋慶喜擁立を目指していました。西郷が左内に宛てた直筆の書状（福井市立郷土歴史博物館保管）では、將軍の正室となった斉彬の養女篤姫を動かして問題を解決しようとする内容が記載されています。大奥からの情報は、篤姫→生嶋（篤姫付老女）↓江戸薩摩藩邸、さらに、西郷を通じて左内から松平春嶽へ伝わったと言います。



西郷隆盛肖像（国立国会図書館蔵）

西郷隆盛は、明治10（1877）

年9月、西南戦争で自刃しますが、カバンの中に左内からの手紙が入っていました。それは、安政4（1857）年12月14日付けの手紙で、一橋慶喜に関する報告書でした。20年前の亡友の手紙を死ぬまで肌身離さず持っていた西郷。左内は、西郷の最も敬愛する友人となっていたのです。二人の心の結びつきをうかがい知ることができるエピソードです。

関連史料・ゆかりの地

左内公園



安政の大獄により26歳の若さで命を落とした橋本左内。その遺徳を顕彰するため設けられた左内公園には、橋本左内とその両親の墓があります。敷地内にある左内の銅像は市民からの寄付により、昭和38（1963）年に建立されたものです。

【住所】福井市左内町7-7（JR福井駅よりコミュニティバスすまいる照手・足羽方面線「愛宕坂」下車徒歩2分）